

ふるさとメッセージ展

『金山が生んだ四兄弟博士』

開催日時 平成14年8月31日(土)~9月1日(日)

開催場所 金山公民館

校歌

下村千秋 作詞  
布施元 作曲  
大槻正路 寄贈

鬼形峰と 小富士山

そびゆる空の 静けさよ

雉子尾の流れ 阿武隈の

うるおす土の 豊かさよ

おお 美わしの わが郷土

おお 尊としの わが郷土

大和文化の その光

臥牛城主の その心

これぞわれらの ほこりなれ

うけて育てん ともどもに

おお 美わしの わが歴史

おお 尊としの わが歴史

平和日本の ゆくところ

われら朝夕 進む道

まことの徳の さすところ

われら朝夕 学ぶ道

おお 美わしの 金山校

おお 尊としの 金山校



## 大槻四兄弟略歴

### 四兄弟のご両親

#### 父 精

- 安政6年 刈田郡宮村に生れる。
- 明治14年 宮城県医学校卒業。
- 明治18年 よねと結婚。
- 明治21年 金山表小路168番地に転居。佐野製糸工場弘栄館嘱託医となる。
- 明治38年 仙台市に転居。
- 昭和8年 大東京金山会設立に尽力、初代会長。
- 昭和13年 東京小石川の長男菊男宅にて逝去。79歳。

#### 母 よね

- 慶応元年 仙台藩士大泉甚之進の二女として生れる。
- 昭和13年 逝去。73歳。

### 菊男先生(医学博士)

- 明治20年 大槻家の長男として仙台市に生まれる。
- 明治34年 金山尋常小学校主席で卒業。
- 明治39年 県立角田中学校主席で卒業。
- 明治42年 仙台第二高等学校卒業。
- 大正2年 東京帝国大学医学部卒業。
- 大正7年 宮城県出身大正デモクラシー運動の指導者吉野作造夫妻の媒酌により露子と結婚。
- 大正12年 東京帝国大学より医学博士の学位授与。
- 昭和11年 東京帝国大学教授。
- 昭和19年 日本外科学会会長。
- 昭和25年 東京大学名誉教授。
- 昭和33年 東京虎ノ門病院初代院長。
- 昭和39年 勲二等瑞宝章授与される。在京金山会顧問。
- 昭和52年 逝去。89歳。

業績 日本内臓外科の権威。「大槻式胃腸縫合器」を発明する。胃潰瘍・胃癌の手術は日本一と言われ、戦前、戦後を通じ昭和天皇の侍医を努める。  
著書に大槻外科学各論など多数。

## 正路先生(医学博士)

- 明治25年 大槻家三男として金山表小路168番地に生れる。  
明治32年 金山尋常高等小学校入学。  
明治38年 仙台市東二番丁小学校転校。  
大正5年 東北大学医学部卒業。  
大正7年 貞子と結婚。  
大正15年 帝国女子医大外科部長。  
昭和7年 東京大学より医学博士の学位授与。  
昭和8年 東京久ヶ原に大槻病院開設。  
平成元年 逝去。97歳。

業績 昭和8年、大東京金山会設立に尽力、理事に就任。昭和38年在京金山会設立、長年にわたり会長を努める。戦時中一時中断したが、昭和12年から42年まで毎年「帝都県学生」を募集し、郷土金山の中堅として活躍する人材の育成にあたった。また、奨学のためとして金山小学校・丸森東中学校に金・銀・銅のメダルを寄贈した。金山小学校の校歌は昭和15年に先生が寄贈されたものである。

## 正男先生(農学博士)

- 明治28年 大槻家四男として金山に生れる。  
明治34年 金山尋常高等小学校入学。  
明治30年 仙台東二番丁小学校に転校。  
明治41年 県立白石中学校入学。刈田郡宮村の伯父の家から往復三時間半の道のりを徒歩通学。  
大正7年 仙台第二高等学校卒業。  
大正10年 東京帝国大学農学部卒業。農商務省に入省。  
大正14年 菊男の妻露子の妹美那子と結婚。  
昭和7年 京都帝国大学教授。  
昭和14年 同大学より農学博士の学位授与。  
昭和33年 同大学名誉教授。東京農大教授。  
昭和40年 勲二等瑞宝章授与される。  
昭和53年 日本学士院会員。  
昭和55年 逝去。85歳。

業績 農業経営学、食糧問題の権威、特に農業経営の理論的研究は我が国の農業経済学に新時代を画した。退官後農政審議会など各種委員を歴任した。著書多数。金山図書館にも多くの著書が所蔵されている。

## 虎男先生(理学博士)

- 明治35年 大槻家六男として金山に生れる。
- 大正12年 仙台第二高等学校卒業。
- 大正15年 東京帝国大学理学部卒業。
- 昭和10年 文子と結婚。
- 昭和13年 東京帝国大学より理学博士の学位授与される。
- 昭和26年 お茶の水女子大教授。
- 昭和43年 同大退官。名誉教授となる。東北学院大学教授。
- 昭和48年 勲二等瑞宝章を授与される。

業績 昭和8年法隆寺壁画調査、掛軸に生ずる汚染および刀剣の錆について研究。

昭和19年ペニシリン生産菌発見。

昭和25年中尊寺のミイラ調査にあたる。

同年、「ガラスに発生するカビの研究」で毎日学術奨励金を受賞する。などカビの研究一筋に多くの業績をのこす。

メモ

# 大槻 正路

明治三十五年・平成元年  
(一八九二・一九八九)



明治三八年、父の転勤で住み馴れた金山を離れ、仙  
台東二番丁小学校・高等科二年に編入、翌年福島県飯野  
村小学校に転校、四〇年同校卒業と同時に姉の尽力で  
東京学院入学、四五年東北大学医専入学、卒業後は義  
兄綱島の営む上川眼科医局に入る。翌年鶴川に独立開  
業、水沢町長内田紹衛(後藤新平・斎藤実の姻戚)長  
女貞子を娶る。大正一一年慶応大学外科助手、一五年

帝国女子医専外科教授となる。昭和七年東大より医博  
の学位を受ける。

こうした時点で生活の転換を考え、同学を辞し、蒲  
田に大槻病院を開業、久ヶ原に別宅をつくるなど経営  
を順調に伸ばしていたが一九九年の空襲で罹災、岩手県  
姉体村に疎開、推されて胆沢病院長や秋田湯瀬病院長  
として診療に当たっていたが、二二年久ヶ原で診療再開。  
二七年に蒲田に病院再建を果たした。三七年喜劇役者  
エノケンこと榎本健一の右足を脱疽と診断し、切断は  
役者生活に影響するとして、切除を最小限にとどめ再  
起させたことが、大きく新聞に報ぜられ一段と名を挙げ  
た。

ところで医療業務の傍ら兄弟の世話や地域社会に対  
しての奉仕活動(城南仙台藩人会々長、梅屋敷公園保  
存会長、久ヶ原町会長)にも中心的存在であった。こ  
のほか金山から上京の青年たちを書生として遇し面倒  
を見るなど数限りない。

金山を故郷とする思いを強く意識していることや、  
級友星泰三郎との心の触れ合いも大きく作用している  
こともあって、昭和八年の金山図書館建設構想に真先  
に賛同、多大の金品、図書が贈られたほか、このころ

冷害の被害から立ち直らせる一方策として、将来を担う中堅青年に夢と希望を持たせようと帝都見学生制度を発足させた。経費一切を負担、当時の行政、教育機関などに大きな波紋を投げかけた。戦中一時中断したが戦後復活させた。昭和一五年には皇紀二六〇〇年紀念の祝賀行事を協賛して、母校の金山小学校に校歌がないのは淋しい。制定の考えがあるのならお手伝いしましょうと関係機関に申し入れる。合意の回答を得て作詞は作家の下村千秋に、作曲は新進気鋭の布施元に依頼、コロンビアレコード社で円盤化し楽譜と共に贈ってきた。一月三日の明治節に発表、披露がなされた。素晴らしいできばえに町民も皆感激、もちろん伊具、角田一六校から羨望の的となった。後輩たちに対する最大の贈物であり、今も声高らかに歌い継がれている。

昭和三八年金山を訪問されたときの述懐談「煙草をのんで叱られたこと。貯金をごまかし、そういうことはするもんでないと諭され大人になってもそれを金科玉條として守った。兄弟が助け合う美わしい気持が、金山でつくられた」と、

昭和15年11月3日制定

詩作 下村千秋  
作曲 布施元  
寄贈 大槻正路

### 金山小学校校歌

一、鬼形峰と 小富士山

そびゆる空の 静けさよ

雉子尾の流れ 阿武隈の

うるおす土の 豊かさよ

おお 美わしの わが郷土

おお 尊としの わが郷土

二、大和文化の その光

臥牛城主の その心

これぞわれらの ほこりなれ

うけて育てん ともどもに

おお 美わしの わが歴史

おお 尊としの わが歴史

三、旭日日本の ゆくところ

われら日ごろの 進む道

まことの徳の さすところ

われら朝夕 学ぶ道

おお 美わしの 金山校

おお 尊としの 金山校